

人間の尊厳“ことば”の回復を図る ～言語聴覚士～

高校1・2年生
高校3年生
歓迎

言語聴覚学科 説明会

国際医療福祉大学 成田キャンパス

日時：2022年10月9日（日）10時～14時

言語聴覚士は、“ことば”や“飲み込み”など人間の尊厳の回復を図る専門職です。新生児から高齢者まで、あらゆる世代の障害を持つ方々に訓練・指導などのリハビリテーションを行います（裏面参照）。

言語聴覚士は、医学のみならず、言語、心理など、人文科学の素養も必要とされます。医療福祉全般に興味のある方のみならず、言語や心理に興味のある方にも向いている職種（国家資格）です。コミュニケーション学、心理学に興味のある方も是非お越しくください。当日は教員、在校生、先輩言語聴覚士が皆さんをお待ちしています。

当日の内容

▶言語聴覚士の仕事を知る

～大学関連施設の言語聴覚士による
業務紹介～

▶言語聴覚学科での学びを知る

～教員による授業紹介～

～在校生による

キャンパスライフの紹介～

～実験・実習・演習室見学～



お申込みは、QRコードもしくは
成田キャンパスHPから
(URL：<https://narita.iuhw.ac.jp/>)

国際医療福祉大学 成田キャンパス 検索

国際医療福祉大学 成田キャンパス
成田保健医療学部 言語聴覚学科

お問合せ：
〒286-8686 千葉県成田市公津の杜4-3
TEL：0476-20-7705(広報)

言語聴覚士は、生涯の様々な場面で活躍します。

新生児

難聴の早期発見と療育

新生児1,000名のうち、3名は言語発達に影響を及ぼす程度の難聴を有すると言われています。健全な言語コミュニケーション発達に向けて、0歳代から聴力検査を行い、補聴機器の装用を通して、言語コミュニケーションの発達を支援します。また、難聴児の保護者を精神的に支援することも大事な仕事です。

幼児・学童

言葉の遅れ、コミュニケーションの発達を支援する

コミュニケーションは親子関係の基盤です。言葉や思考、対人関係の発達を的確に捉え、コミュニケーションの発達を支援します。言葉の遅れのみならず、自閉症や、注意欠陥多動障害(ADHD)、学習障害、読み書き障害にも対応します。医療と教育との橋渡しを行い、お子さんの未来を育みます。教育現場で活躍する言語聴覚士も数多くおります。

青年

吃音(どもり)に対処する

吃音に悩む方々は少なくありません。学校では授業の場での発言や、お友達との関係など、仕事の場では会議での発言など、様々な場面に影響します。吃音の治療技術は進展しています。言語聴覚士は吃音治療の担い手です。

壮年

声の病気を治し、芸術・芸能を支える

歌手、俳優、アナウンサーが声帯ポリープなど、声の病気を患い、声を出しづらくなることがあります。言語聴覚士はプロフェッショナルな方々を対象として、声の専門的検査や、声をもめない発声方法の習得などのリハビリテーションを行い、芸術・芸能を支えています。

高齢者

患者とともに、がんと闘う

舌、顎、声帯は、がんの好発部位です。がんの治療のため、これらの器官を切除することにより、発声や発音、飲み込みの障害を伴うこともあります。食の楽しみや、社会人として求められる会話能力の維持に尽力し、がんと闘う患者さんの社会での活躍に貢献します。

脳卒中に負けない

救命救急医療の進展により、脳卒中による死亡率は減少しています。これは、後遺症を持ちながら生きる人々の増加を意味します。脳卒中により生じる言語の障害(失語症)、記憶や認知の障害(高次脳機能障害)、発声や発音の障害、嚥下障害などに対処し、生活の質(QOL)の向上に貢献します。

認知症があっても、かけがいのない日々を

加齢により、記憶や思考力の低下は免れません。しかし、その様相は、各人でバラバラです。その人が生きてきた歩みや個性を大事にしながら、脳機能の低下を専門的な目で詳細に捉え、その人らしい、安寧な日々を過ごすことを支援します。

“言葉は心をつなぐ”



言語聴覚士は、コミュニケーションと飲み込みの支援を通じて、その人らしい人生の実現を、お手伝いします。

言語聴覚士を知るには！
日本言語聴覚士協会
“めがせST”ページへ